

# 第2次 恵那市観光ビジョン（案）

～恵那の誇りと個性を磨き、地域交流を促進し、  
持続可能な観光地として稼ぐ力を高める～

令和8年 月  
恵 那 市



# 目次



**I 計画の策定にあたって**

- 1. 本ビジョン策定の背景 . . . . . P3
- 2. 前回ビジョンの振り返り . . . . . P6
- 3. 本市の観光に関する課題 . . . . . P7

**II 本ビジョンについて**

- 1. 本ビジョンの目的 . . . . . P9
- 2. 本ビジョンの位置づけ . . . . . P10
- 3. 本ビジョンの期間 . . . . . P11

**III 現状分析**

- 1. 社会動態 . . . . . P13
- 2. 産業と雇用の情勢 . . . . . P14
- 3. 観光動態 . . . . . P16
- 4. 本市の主要な観光資源 . . . . . P23

**IV 基本方針**

- 1. 基本理念 . . . . . P29
- 2. 基本的な考え方 . . . . . P30

**V 事業計画**

- 1. 重点戦略 . . . . . P32
  - 宿泊・滞在の基盤強化
  - 観光消費を生み出す仕組み
  - 広域連携とインバウンド戦略
  - 特化型・テーマ型コンテンツの推進
- 2. 重点戦略（施策） . . . . . P36

**VI 重要業績評価指標（KPI）**

- 重要業績評価指標（KPI）の設定 . . . . . P41

**VII 実施体制**

- 実施体制 . . . . . P43

**VIII 評価と見直し**

- 1. 進捗管理と意見の反映 . . . . . P45
- 2. 計画の見直し . . . . . P46



I

# 計画の策定にあたって





# 1.本ビジョン策定の背景

## 本市の現状と将来の課題

岐阜県南東部に位置する恵那市は、豊かな自然環境、貴重な歴史的遺産及び多様な文化資源を有しており、これらは観光業の強みであり地域経済の活性化に大きな可能性を秘めています。観光業は地域経済において重要な役割を果たしており、その発展は地域活性化に直結します。

しかし、近年は人口減少と高齢化が進行しており、地域の持続的な発展に向けて新たな戦略的取り組みが求められています。観光資源を有効に結びつけ、地域全体で観光振興を進めることが急務です。また、観光地づくりにおいては、地域文化を守りながら観光を促進することが重要です。

地域間の連携強化や観光資源の広域的活用が鍵となり、住民に寄り添った観光を重視し、地域の声を反映しながら誇りと愛着を育む仕組みづくりが求められています。観光客には自然や文化に触れる感動体験を提供し、再訪時には歴史・文化・食を深く学べるプログラムを展開することで、観光を「一過性の体験」から「継続的な関係性」へ進化させる必要があります。





# 1.本ビジョン策定の背景

「恵那市みらいビジョン2045」の基本構想において、2045年を見据え、「自然とともにひととまちが輝く活力あふれる恵那」を目指す

「活力・魅力を生み出す」基本方針のもと、観光業の振興が重要な柱とされ、地域資源を活用した観光消費の創出などが進められています。これにより、持続可能で魅力的な観光地の実現のため、以下の5つの観点から観光に関する取り組みが重視されています。

- ①成長性
- ②域外からの外貨獲得
- ③第3次産業から第2次、第1次産業への波及
- ④地域コミュニティの強化
- ⑤条件不利地域でも十分な競争環境



恵那峡

これらの要素は観光振興における重要な視点となっています。





# 1.本ビジョン策定の背景

## 地域活性化のために観光を重視する5つの理由

### ①成長性

政府は、2030年までに年間の訪日外国人旅行者を6,000万人とする目標を掲げており、21世紀のリーディング産業として今後も成長が見込まれています。一方、本市においてもWRCの開催により国内外からの多くの旅行者が見込まれ、国際観光・国内観光ともに拡大するチャンスが到来しており、産業としての成長性が見込まれます。

### ②域外からの外貨獲得

成功している観光地では、その地域に赴かなければ食することや入手することも経験することも出来ないモノが数多く存在し、希少価値の高さを売りにして、域外から外貨を獲得しています。一方、本市においても自然体験や農業体験など恵那でしか経験できない観光コンテンツを創出し観光客の消費行動につなげることにより、外部から新たに外貨を獲得することができ、富の増加につなげることができます。

### ③第3次産業から第2次、第1次産業への波及

観光業は裾野の広い産業です。旅行業や宿泊業、運輸業だけでなくレストランや娯楽施設、通訳といったサービス業、製造業、小売業、金融業にも広がります。本市においても、宿泊・飲食・サービスに代表される第3次産業にとどまらず、栗や自然薯を使った土産物や消費財の生産における第2次産業、更にそれらの原材料を共有する第1次産業へと、その波及効果によって地域全体の産業の活性化につながります。

### ④地域コミュニティの強化

地域資源の掘り起こしにより、住民が地域の魅力を再認識し、誇りと愛着を育むことで、地域コミュニティの再建・強化につながります。市内13地域のアイデンティティを高め、住民に寄り添った観光を推進します。さらに、こうした取り組みは地域内外の交流を促進し、観光を通じたネットワーク形成を加速させます。結果として、地域全体の結束力が高まり、持続可能な観光地づくりの基盤が強化されます。

### ⑤条件不利地域でも十分な競争環境

交通利便性が低い地域でも、「非日常体験」や特化型の魅力を演出することで競争力を発揮できます。初回は恵那ならではの自然や文化に触れる感動体験を提供し、再訪では歴史・文化・食を学べるプログラムで「一過性」から「継続的な関係性」へ進化させます。こうした段階的な体験設計により、交通条件に左右されない魅力的な観光地づくりを実現します。





## 2. 前回ビジョンの振り返り

令和2年度に「恵那市観光ビジョン」を策定し、令和4年度に見直しを行いました。前回のビジョンでは、目指す姿として「恵那らしさを追求した、稼ぐ観光地」を設定し、3つの戦略に基づき関連事業を推進してきました。計画期間中には、新型コロナウイルス感染拡大やSDGsの考え方の普及など、観光をはじめとする社会的な状況等に大きな転換が起きました。

### 【目指すべき将来像】

恵那らしさを追求した、稼ぐ観光地

- ・ 基本的な考え方  
市民が誇りをもち、郷土愛を深めながら、恵那にしかない特別な体験で観光産業を育成し、域外からの外貨を獲得できる、持続可能な観光地づくりを行う

### 【戦略の柱】

目指すべき将来像を実現するため、次の3つの戦略の柱に基づいて事業を実施。

1. 来訪者の市内周遊と宿泊を促進させるため施設・店舗の魅力向上や賑わい創出の拠点の整備
2. リニア中央新幹線開業を活かした広域観光連携の推進による来訪者の拡大とインバウンド観光の推進
3. 恵那固有の自然や歴史を活かしたアウトドアレジャーと歴史観光の推進

### 【前回ビジョンの成果】

- ・ 観光資源の活用  
岩村城跡、恵那峡などの地域資源を活用し、観光客数の増加と観光周遊の促進に貢献しました。
- ・ 宿泊施設の充実  
新規宿泊施設の開業が進み、民宿やゲストハウスなど、宿泊施設の多様化と滞在型観光の推進が実現しました。
- ・ 観光インフラの整備  
観光案内所や案内板の整備が進み、情報提供体制が強化されましたが、交通アクセスの改善には引き続き課題があります。

## 3.本市の観光に関する課題



本市における現状は、観光資源の活用、滞在環境の整備、地域経済の循環、観光受入体制など、複数の分野にわたる重要な課題が浮き彫りになっています。これらの課題を解決するためには、観光業を地域全体で支え、持続可能な観光地として発展させるための取り組みが求められています。

### 【観光資源・地域特性の活用と連携】

恵那市には、岩村城跡や恵那峡、農村景観など、各地に魅力的な観光資源があります。しかし、これらの観光資源が単体で完結しており、エリア間での連携が弱いため、観光周遊の促進が十分にできていないという課題があります。また、近隣自治体との広域的な連携が断続的であり、観光圏としての一体的な推進が欠けている状況です。

- ・観光資源の地域差と周遊連携不足
- ・近隣自治体との連携の不十分さ
- ・地域一体の情報発信体制の欠如

### 【地域経済循環と担い手の確保】

観光消費の地域内還元が限定的であり、観光と地元産業との連携が弱いため、観光収益が地域内に還元されにくい状況です。このため、観光業が地域経済に与える影響が限られており、観光業を中心とした経済循環が成立していません。また、地域の観光事業者の高齢化や後継者不足も深刻な問題であり、新たな担い手を確保するための仕組みが整っていないことが課題となっています。

- ・観光消費の地域内還元不足
- ・担い手不足と人材育成の課題
- ・地元産業との連携不足

### 【滞在環境・宿泊・観光拠点の整備】

市内の宿泊施設が依然として不足しており、また、立地が中心市街地や一部の観光地周辺に偏っていることから、広域周遊や長期滞在に対応できないという課題があります。特に農山村部での宿泊拠点整備が遅れており、観光拠点として機能する施設の整備が急務です。また、空き家や遊休施設を観光拠点として活用するための支援制度が不十分であり、民間活力を活かした事業化が進んでいないのが現状です。

- ・宿泊施設の不足と偏在
- ・空き家利活用の遅れ

### 【観光受入体制と持続可能性の強化】

インバウンド観光の再開に向けて、多言語対応や受入体制の整備が遅れており、外国人観光客への対応力が不足しています。また、気候変動対策や環境保全に配慮した観光施策が遅れており、持続可能な観光地への移行が急務です。観光の環境負荷を減らし、持続可能な観光地として発展させるためには、GX（グリーントランスフォーメーション）や環境保全を推進する取り組みが必要です。

- ・インバウンド・多言語対応の遅れ
- ・環境保全とGXへの対応の遅れ
- ・持続可能な観光への再設計の必要性

Ⅱ

## 本ビジョンについて





## 目的：関係者間での共通理解と目標共有

本ビジョンの策定を通じて、恵那市の豊かな自然、歴史、文化、食といった地域資源を最大限に活用し、観光振興を実現します。持続可能な観光地づくりを進め、地域の誇りと愛着を育み、住民と観光客の双方にとって価値ある地域を目指します。

また、訪れる人々に「感動体験」を提供する観光地を目指します。初めて訪れる観光客には自然や文化に触れる体験を、再訪者には歴史・文化・食を深く学べる滞在型プログラムを展開し、観光を「一過性の体験」から「継続的な関係性」へ進化させます。

更に、地域資源の面的な活用と観光による地域活性化の両立を図り、特に自然、歴史、文化、食を融合させた滞在型・体験型観光を推進します。

住民参加と地域間連携を強化し、体験プログラムや広域的な観光ルートを開発することで、「選ばれる観光地」へと成長させます。



## 2.位置づけ及び関連計画との整合性



本ビジョンは、恵那市みらいビジョン2045及び第3次恵那市産業振興ビジョンの下に位置づけられ、観光業を地域経済の中核とするための戦略的指針を提供します。

観光業の発展が地域経済の活性化に直結していることから、本ビジョンは恵那市の産業振興において重要な役割を担い、産業振興事業全体の中で具体的な施策を進めていきます。

恵那市みらいビジョン2045  
(第3次恵那市総合計画)  
(令和8年度から令和27年度)

第3次恵那市産業振興ビジョン  
(令和8年度から令和11年度)

第2次恵那市観光ビジョン  
(令和8年度から令和11年度)

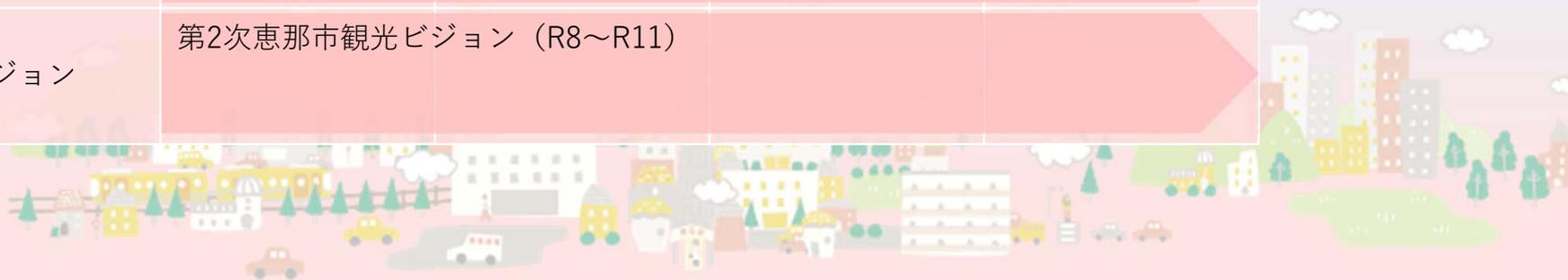
第2次恵那市アウトドアレジャー推進計画  
(令和8年度から令和11年度)





本ビジョンの計画期間は、上位計画である恵那市みらいビジョン2045の基本計画に合わせた、令和11年度までの4年間を目処とします。

	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)	令和11年度 (2029)
みらいビジョン (総合計画)	恵那市みらいビジョン2045 (第3次恵那市総合計画) 基本構想 (R8~R27) ・基本計画 (R8~4年ごとに見直し)			
産業振興ビジョン	第3次恵那市産業振興ビジョン (R8~R11)			
観光ビジョン	第2次恵那市観光ビジョン (R8~R11)			



### Ⅲ

## 現状分析



# 1. 社会動態



- ◇本市の人口は令和6年で44,724人、平成22年と比べると8,994人減少（16.74%減）しており、年間約640人ずつ減少している。
- ◇世帯数は横ばいの状態である。
- ◇岐阜県及び東濃の各市においても人口は減少しており、恵那市の減少率が一番大きい。

人口・世帯数の推移



出典：岐阜県人口動態統計調査

平成22年を基準とした減少率の推移



出典：岐阜県人口動態統計調査

## 2.産業と雇用の情勢



## 恵那市の総生産は2099億円 1人当たり市町村民所得は314万7千円

総生産は県（名目8兆2252億円）の2.6%、県内11位  
1人当たり市町村民所得は県（319万2千円）の98.6%、県内20位

※ 1人当たり所得には企業所得等を含み、市町村全体の経済水準を示すもの



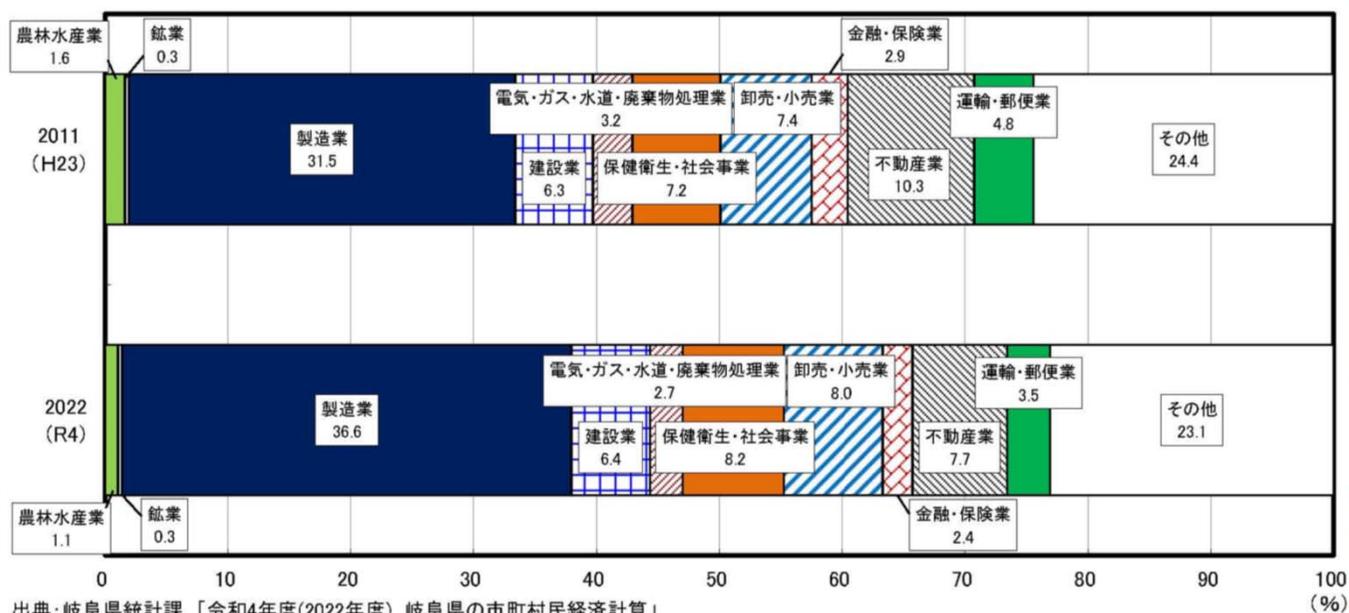
## 2.産業と雇用の情勢



## 第2次産業が43%、第3次産業が55%を占める産業構造

製造業、保健衛生・社会事業の割合が高い

市町村内総生産の経済活動別構成比 (恵那市)



出典: 岐阜県統計課 「令和4年度(2022年度) 岐阜県の市町村民経済計算」

注1: 「不動産業」には、持ち家の帰属家賃を含んでいる。

注2: 「その他」は、宿泊・飲食サービス業、情報通信業、専門・科学技術、業務支援サービス業、公務、教育、その他のサービスの合計。

なお、輸入品に課される税・関税等も含めている。



### 恵那市の観光入込客数の推移

(単位：千人)



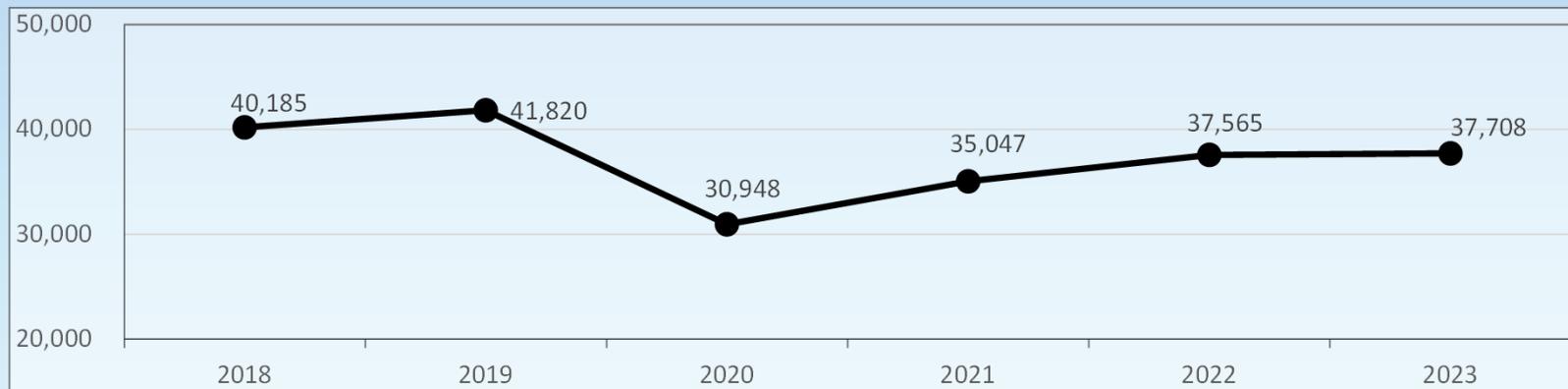
(出展：恵那市統計調査)

## 3. 観光動態



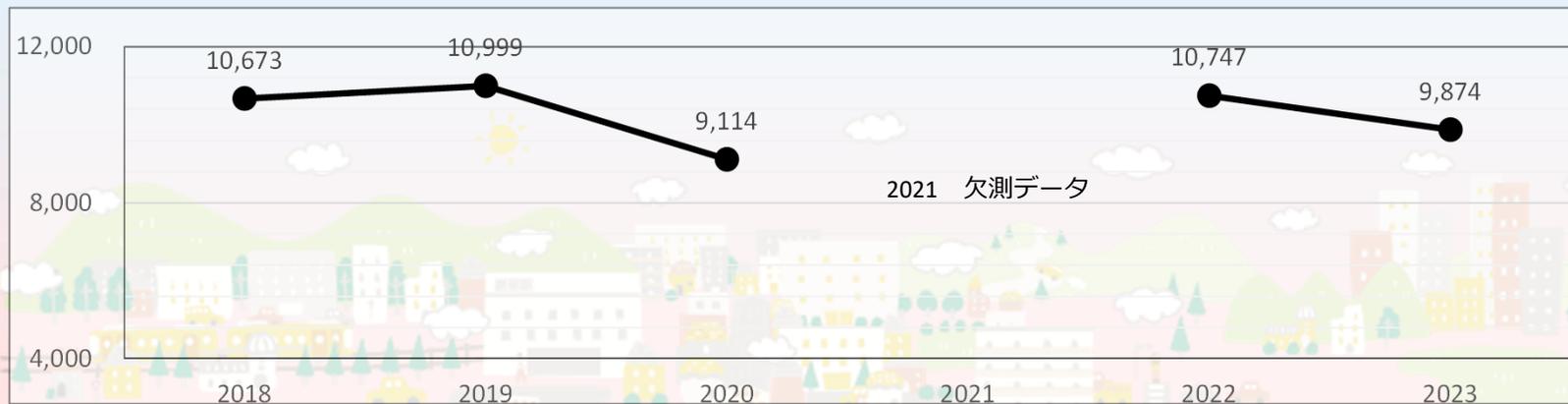
(単位：千人)

岐阜県の観光入込客数の推移



(単位：千人)

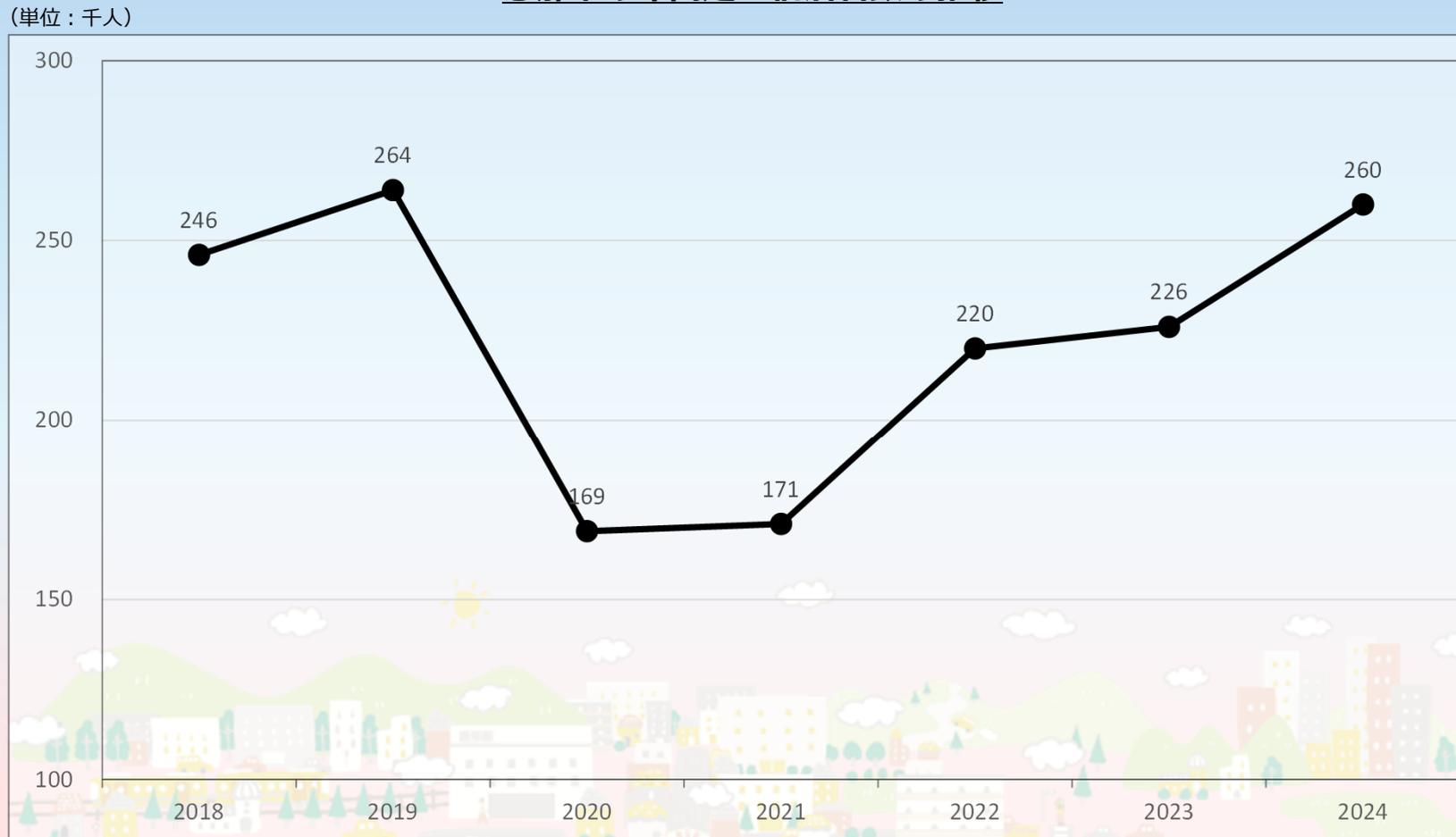
東濃地区の観光入込客数の推移



(出展：岐阜県「令和5年観光入込客統計調査」)

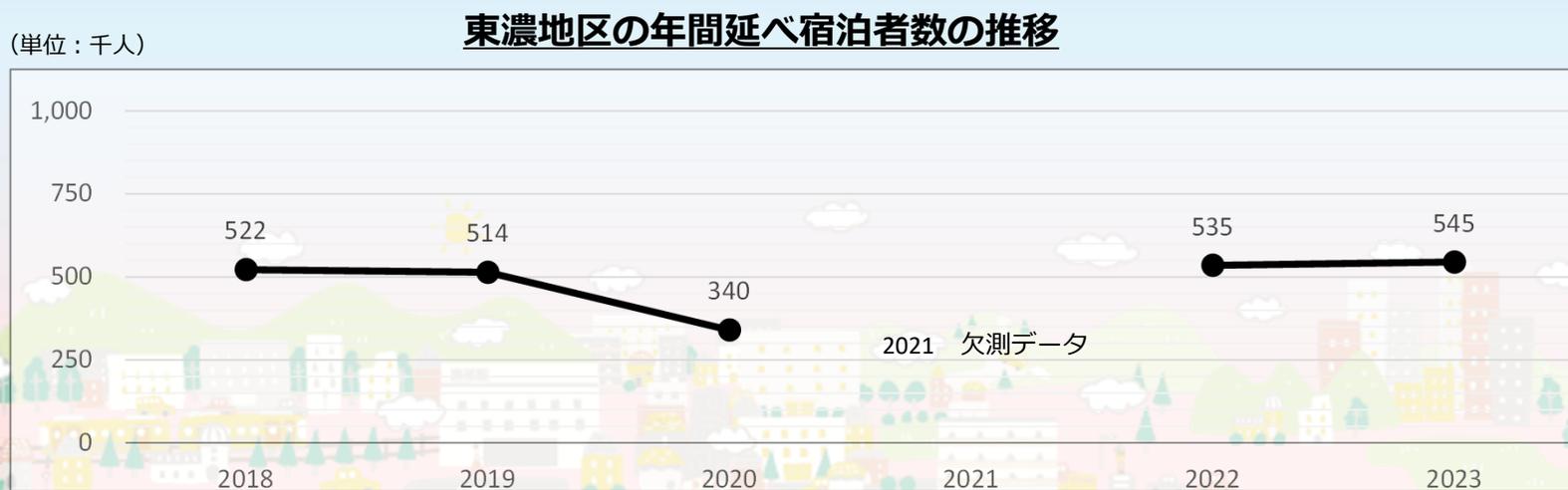
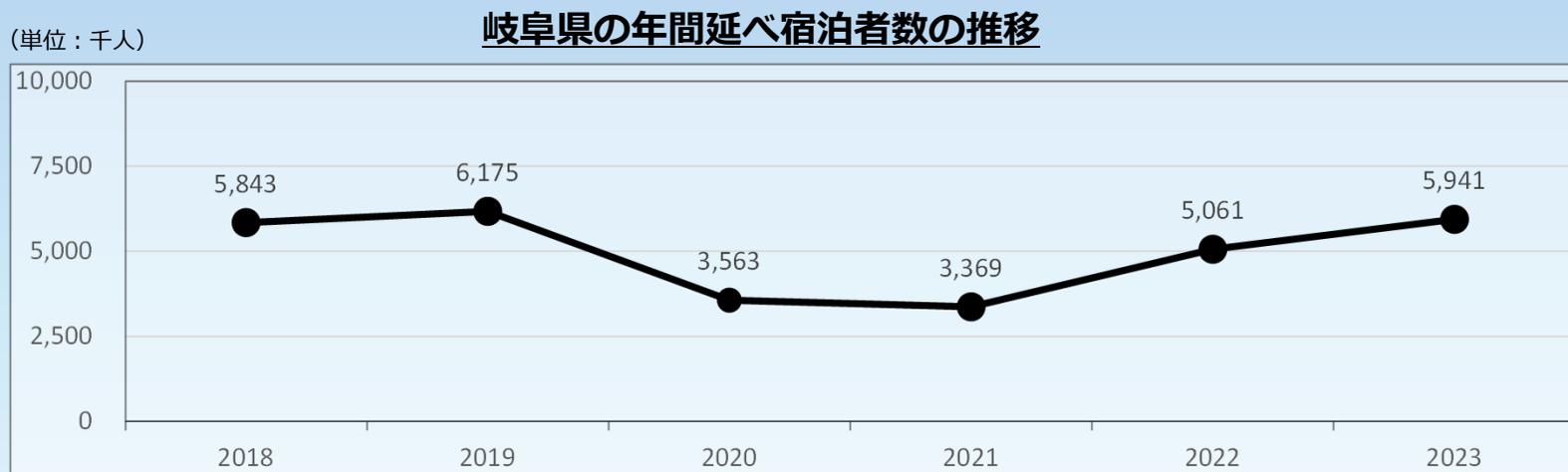


恵那市の年間延べ宿泊者数の推移



(出展：恵那市統計調査)

## 3. 観光動態

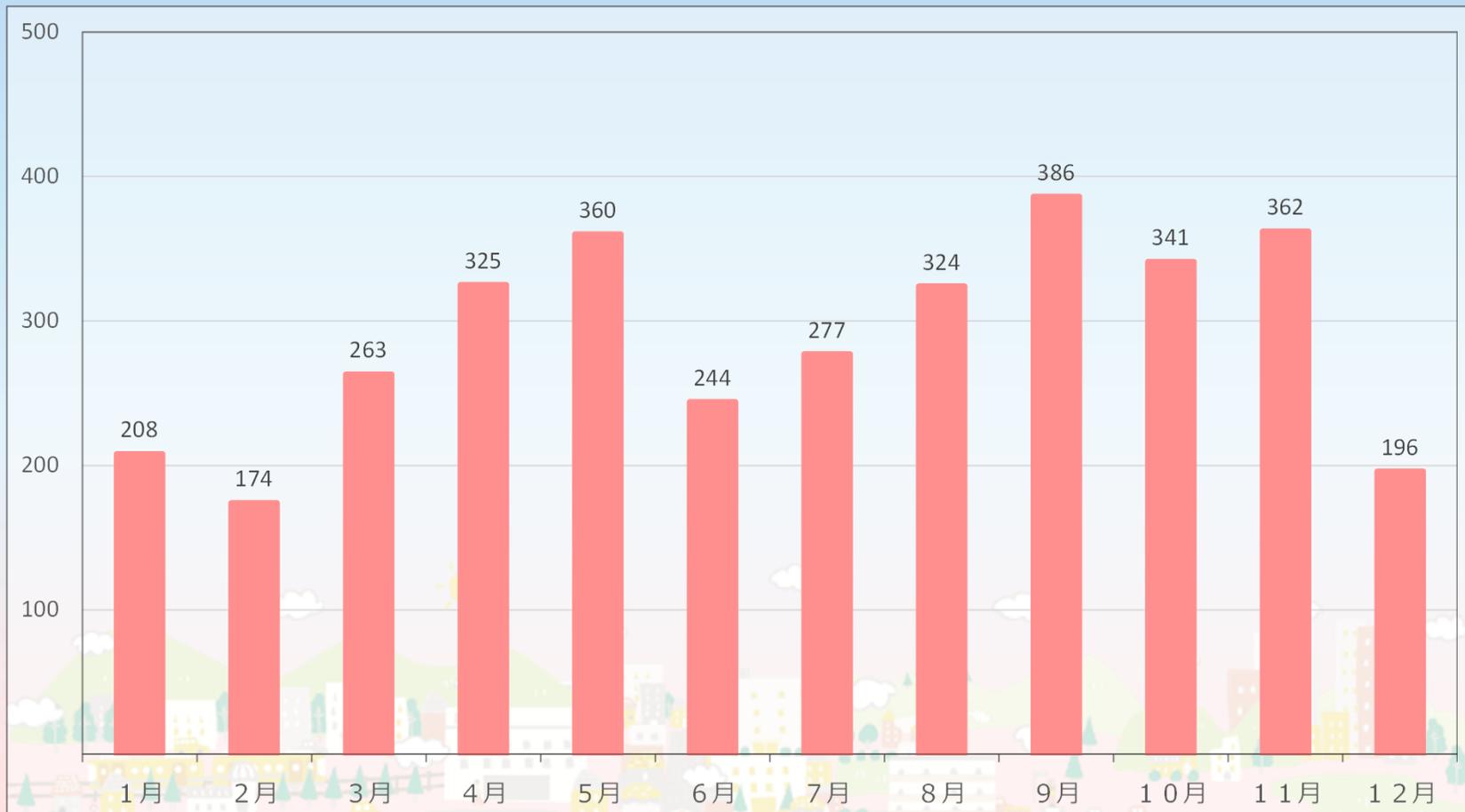


(出展：岐阜県「令和5年観光入込客統計調査」)



恵那市の月別観光入込客数の状況（2024年）

(単位：千人)

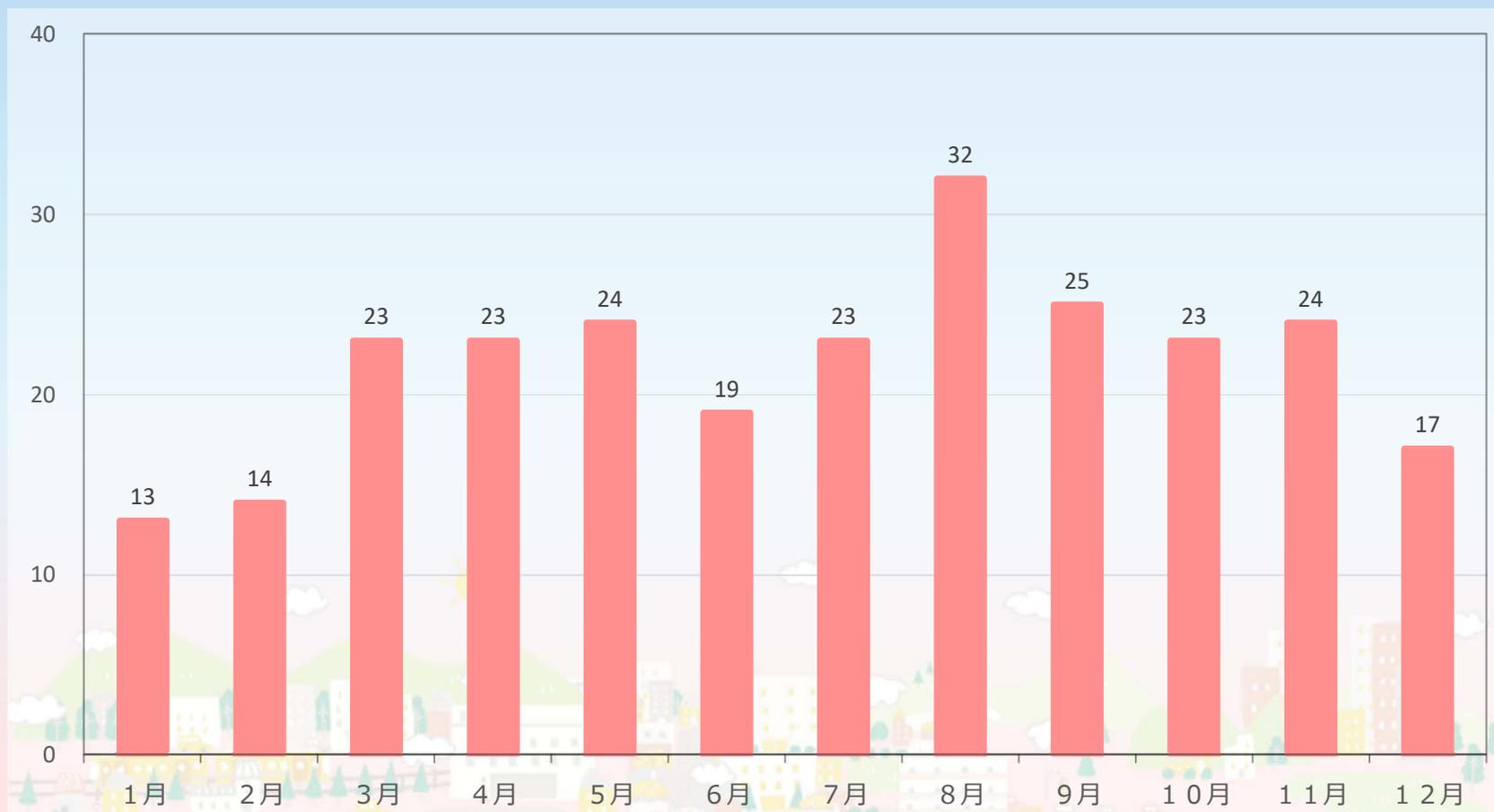


(出展：恵那市統計調査)



恵那市の月別延べ宿泊者数の状況（2024年）

(単位：千人)



(出展：恵那市統計調査)



訪日外国人の年間延べ宿泊者数の推移

(単位：人)



(出展：恵那市統計調査)

## 4.本市の主要な観光資源



### 岩村城下町・岩村城跡

岩村城下町は国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、全長約1.3kmの古い町並み周辺には当時の面影を残す商家や旧家、なまこ壁などが今も佇む。

岩村城跡は、江戸諸藩の府城の中でも最も高い所(標高717m)に築かれ、高低差180mの天嶮の地形を巧みに利用した要害堅固な山城。霧の湧き易い気象までも城造りに活かされており、別名「霧ヶ城」ともよばれている。

織田信長の叔母が城主として統治した城跡には石垣が残り、日本百名城、日本三大山城、岐阜の宝ものに認定されている。



### 恵那峡

恵那峡は木曾川をせき止めて作られた大井ダムによってできた人造湖で、大正9年に地理学者の志賀重昂によって恵那峡と命名された。

両岸には、奇岩・怪石が立ち並び、春にはさざなみ公園の約200本の桜をはじめツツジも美しく咲き、夏には濃緑に赤い恵那峡大橋が映え、秋には、モミジ、カエデなどが湖面を彩る。冬にはオシドリやムクドリなどが飛来し、バードウォッチングもできるなど、四季を通じて楽しめるのが魅力。



### 日本大正村

日本大正村は、かつて蚕糸を地場産業としていた頃の町並みをそのまま保存し、建物や風景すべてに大正時代の情緒が活きている。

明治39年建築の大正村役場をはじめとし、多くの文化人が通った天久カフェを復元した天久資料館や、当時の服装を身にまとい見学するコースなどがあり、大正ロマンをじっくり満喫できる。大正浪漫にタイムスリップできる矢絣の衣裳も人気。



## 4.本市の主要な観光資源



## 自然



「坂折棚田」

農林水産省の日本棚田百選に選定されている。棚田オーナー制度による農業体験などが行われている。



「くしはら温泉ささゆりの湯」

標高464mの山頂にあり、展望露天風呂から眺める山々の景色は格別。周辺にはキャンプ場もある。



「笠置峡」

2020東京五輪に出場したポーランド共和国カヌースプリントチームが、事前キャンプを行った場所である。



「アライダシ原生林」

豊かな緑と清流上村川（矢作川）など手つかずの自然は他には類を見ない宝物。



「岩村町富田の農村景観」

古く美しい日本の農村景観を残しており、ふるさとの素朴な風景が観賞できる。



「笠置山」

市の南に位置する標高1,128の山。山頂付近の岩からの眺めは素晴らしく市内を一望できる。



「根の上高原」

胞山県立自然公園に指定されており、自然に囲まれた高原で宿泊やアウトドアが楽しめる。恵那山荘やキャンプ、グランピング施設も整っている。



「寿老の滝」

西濃の養老の滝に対して名付けられたという高さ10メートルほどの滝。滝つぼは浅く子どもでも近づける。

## 4.本市の主要な観光資源



## 歴史



「白鷹城跡（明知城跡）」

岩村城から南西8kmに位置する遠山18城の一つ。地形を巧みに利用した山城。



中山道「大井宿本陣」

大井宿は江戸日本橋から数えて46番目の宿場町。大井宿本陣は昭和22年に全焼したが、表門と庭園は今も残る。



中山道「ひし屋資料館」

江戸時代の豪壮な商家古山家を市が復元整備した。重厚な町屋の建物で街道や宿場の知識を深めることができる。



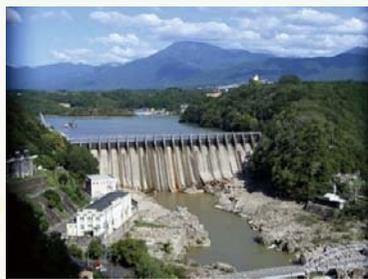
「武並神社本殿」

大井町の国道19号線北川に位置する武並神社本殿は室町時代の建築美を残す国の重要文化財。



「明智光秀公産湯の井戸」

明智光秀公は1526年に落合砦（明智町）で生まれたとされている。この井戸は産湯として使われたとされる。



「大井ダム」

日本の電力王福沢桃介が建築した、日本初の発電用ダム。大正13年の完成当時は東洋一の規模を誇った。



「飯高観音」

日本三大観音の一つ。厄除け、災難よけの神様として、近郷の尊信を集め、東濃地方の初詣先として有名。



佐藤一斎學びのひろば

岩村藩出身の儒学者である佐藤一斎と出逢える、対話する施設。  
～一斎先生と対話し、現代に生きる教えを体感する～

## 4.本市の主要な観光資源



## 文化



伝統芸能「地歌舞伎」

地芝居のうちでも農民など素人が演じる歌舞伎。市内に8団体ある地域の保存会、小学生によりその伝統は脈々と受け継がれている。



芝居小屋「五毛座」

地歌舞伎を演じるために作られた古い小屋。市内には飯地町の五毛座と三郷町の宮盛座の2つが残っている。



天然記念物「傘岩」

恵那峡公園にあるきこの状の奇岩。長年の雨水の浸食や風化によってくびれた。岩の風化現象を示す貴重な標本。



「中山道広重美術館」

恵那駅前にある歌川広重の浮世絵を中心とした美術館。浮世絵の重ね掘りを簡単に体験できる。



「中山太鼓」

串原総氏神中山神社の祭礼で奉納される太鼓で、長時間にわたってたたかれる勇壮な太鼓。県の重要無形民俗文化財に指定されている。



「次米みのりまつり」

飛鳥時代に恵那のお米が都に献上されていたことから、奉納米＝次米にまつわる儀式を再現し、恵那の美味しいお米づくりの伝統やお米の文化を受け継ぐ祭り。



「明知鉄道」

明知鉄道は、暮らしを支えるローカル線であり、観光列車を通じて四季の風景や地元の味を伝える恵那の地域文化の象徴。



「七日福市」

お正月の7日に開催される大井町の市神社の縁日で、300年余りの伝統を誇る。

## 4.本市の主要な観光資源



## 食



「五平餅」

東濃地域の郷土の味覚。ちょっと固めに炊いたウルチ米を串に通し、遠火で下焼きしてタレを付けてこんがり焼く。



「栗きんとん」

東美濃地域の特産恵那栗をふんだんに使った上品な秋の味覚。使う栗の産地や品質にこだわり、伝統の製法を使って店毎の個性をだしている。



「へぼ料理」

へぼ（地蜂）の幼虫を使った恵那地方の郷土食。へぼ飯のほか、甘露煮など、数々の料理は秘伝の郷土食となる。



「カステーラ」

昔ながらの材料を使って仕上げた素朴な伝統菓子。ポルトガルから伝えられた室町時代末期の製法をそのまま現代に伝えている。



「寒天料理」

鉄分や食物繊維を含んだノンカロリーの健康食品「寒天」を使った数々の料理。

山岡町は細寒天の全国シェア9割を誇る。



「えなハヤシ」

ハヤシライスの生みの親・早矢仕有的ゆかりの地恵那市のご当地グルメ。

地元の古代米を使ったごはん、恵那市特産の寒天恵那山麓寒天育ちの三浦豚を使用。



「朴葉寿司」

チラシ寿司を朴葉でくるんだ郷土料理。家庭により乗せる具材が変わってくるため、味わいも見た目もバラエティに富んでいる。



「地酒 女城主」

女性が城主だったという町の歴史を今に伝える「女城主」を中心に、地酒を昔ながらの製法で作っている。

IV

# 基本方針





## 恵那の誇りと個性を磨き、地域交流を促進し、持続可能な観光地として稼ぐ力を高める

スポーツ、自然、歴史・文化、食など13地域に広がる多様な資源を活かし、観光資源の磨き上げと掘り起こしを進めることで、誰もが楽しめる魅力的な観光コンテンツを創出します。来訪者が地域の魅力に触れて感動し、その背景にある歴史や文化、物語を知ることによって理解を深め、再訪へとつながる観光の実現を図ります。

訪れるすべての旅行者に恵那市の多様性・多面性を存分に体感していただける観光地づくりを、行政、DMO、観光協会、地域事業者及び住民が一体となって推進するとともに、多様な観光資源を有機的に組み合わせた学びや発見を伴う滞在型観光を展開することで、リピーターの創出と、観光に携わる者が持続的に稼ぐことのできる観光地づくりを目指します。



## 2. 基本的な考え方



1. 世界に選ばれる恵那
2. 自然・歴史・文化・食を融合した滞在型観光地
3. 観光を通じて地域の誇りを育み、人材が活躍できるまち



さらに、恵那市みらいビジョン2045との整合を図り、以下の方向性を具体的に目指します。

- ・観光客の市内滞在時間延長に向け、施設や店舗の魅力を磨き、賑わい創出の拠点を整備する。
- ・リニア開業を見据え、広域観光連携を強化することで観光客を増やすとともに、多様性・多面性のある観光地づくりを進める。
- ・恵那市ならではの自然や歴史を活かしたアウトドアレジャーと歴史観光を推進する。
- ・交流人口拡大と地域活性化を図るため、SLなどの産業遺産を活用したまちづくりを推進する。





# 事業計画





# 1. 重点戦略

## 1. 宿泊・滞在の基盤強化

### 目標：宿泊施設の充実と滞在型観光を促進

恵那市では、宿泊施設の不足と立地の偏在が長年の課題となっており、広域周遊や長期滞在を促進するためには宿泊環境の整備が不可欠です。特に農山村部では宿泊拠点が乏しく、観光資源を十分に活かしてきていない現状があります。

この戦略では、空き家や遊休施設を活用した民泊の推進や、新規宿泊施設の誘致を通じて滞在型観光の基盤を強化します。また、宿泊施設の質向上に向けて接客技術やサービスの標準化を進め、地域資源を活用した体験型滞在を提供することで、観光客に「恵那ならではの価値」を感じてもらうことを目指します。さらに、オンライン予約や口コミ促進などマーケティングを強化し、宿泊施設の稼働率を高めることで、地域経済への波及効果を最大化します。

これにより、観光業を核とした地域雇用の創出や、農山村部の活性化にもつながることが期待されます。



# 1. 重点戦略



## 2. 観光消費を生み出す仕組み

### 目標：観光消費を拡大し、地域経済を活性化

観光収益の地域内還元が限定的で、地元産業との連携が弱い現状があり、観光を通じた地域経済循環の仕組みづくりが必要です。

この戦略では、地域ブランド商品の開発や産業遺産の活用、観光商品パッケージ化を進め、観光客の消費行動を地域に結び付けます。例えば、宿泊・体験・特産品を組み合わせたセット販売や、地域通貨の導入による消費促進など、地域内での経済循環を強化します。さらに、SNSを活用したプロモーションや商業施設との連携を強化し、観光消費の拡大を図ります。

こうした取り組みにより、観光を起点とした一次産業や製造業への波及効果が期待され、地域全体の経済基盤を強化します。観光消費の増加は、地域の雇用創出や若者の定住促進にも寄与し、持続可能な地域社会の形成に直結します。





# 1. 重点戦略

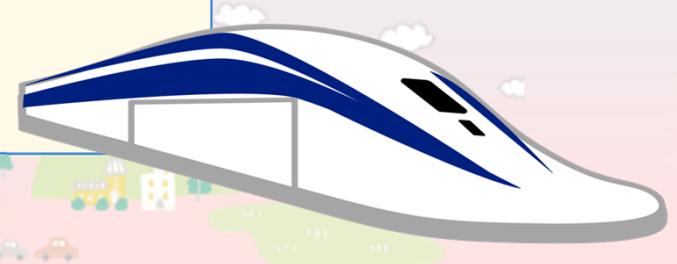
## 3. 広域連携とインバウンド戦略

### 目標：広域観光ルート形成と海外誘客強化

リニア中央新幹線開業を契機に、広域観光圏の形成とインバウンド対応が急務です。

この戦略では、近隣自治体との連携を強化し、広域観光ルートを形成することで、恵那市を含む地域全体の魅力を高めます。また、海外市場に向けたプロモーションやインフルエンサーとの協働を進め、SNSを活用した情報発信を強化します。さらに、観光地や施設での多言語対応や無料Wi-Fi環境の整備を進め、訪日外国人観光客にとって快適な滞在環境を提供します。

これにより、国際的な観光需要を取り込み、地域ブランドの認知度向上と交流人口の拡大が期待されます。加えて、インバウンド観光の推進は地域の文化や食の魅力を世界に発信する機会となり、地域資源の価値を高める効果もあります。





# 1. 重点戦略

## 4. 特化型・テーマ型コンテンツ

### 目標：恵那ならではのテーマ性を打ち出し、特化型観光を推進

自然・歴史・文化・食を融合した滞在型観光を強化し、地域資源を活かしたテーマ型コンテンツを創出します。

この戦略では、映画やドラマの撮影地を活用したロケツーリズムの推進、文化・歴史観光の強化、食と農業体験観光の充実を図ります。さらに、インバウンド対応プログラムを整備し、多言語ガイドの育成を進めることで、海外観光客にも対応できる体制を構築します。

こうした取り組みは、恵那市の独自性を際立たせ、観光客に「ここでしかできない体験」を提供し、リピーター獲得にもつながります。特化型観光の推進は、地域の文化資源を守りながら新たな価値を創出し、観光産業の競争力を高める重要な要素となります。





## 2. 重点戦略（施策）

### 1. 宿泊・滞在の基盤強化

#### ① 宿泊施設誘致の強化

- 観光地への新たな宿泊施設誘致と滞在型観光の促進
- 空き家改修助成金制度を活用した民泊施設の整備と地域振興
- 地域資源を活かした分散型宿泊モデル（アルベルゴディフーズ）の仕組みづくり

#### ③ 宿泊施設の質向上

- 接客技術やサービスの標準化による『おもてなし』の質向上
- 地域資源を活用した基本サービス提供と地元との連携強化
- プレミアム体験や特別サービス等の差別化による、高付加価値化

#### ② 体験型滞在の充実

- インフラ整備とガイド育成による、質の高いアウトドア体験の提供
- 多様なアウトドア体験プランの提供による、地域資源を活かした観光促進
- リモートワーカー向け宿泊施設の提供とスポーツツーリズムを通じた長期間の滞在促進

#### ④ 宿泊施設のマーケティング強化

- 宿泊施設オンライン予約システムの活用
- 地元の観光事業者や施設との連携による、観光パートナーシップの構築
- 宿泊施設の評価の高まりによる、口コミでの集客促進





## 2. 観光消費を生み出す仕組み

### ① 地域ブランド商品開発

- 地元特産品の魅力再評価、ブランド化の推進
- 地元食材を使った観光プログラムや食文化体験の提供による、フードツーリズムの推進
- 地元シェフと連携した地元食材使用の独自料理の開発

### ③ 観光商品パッケージ化

- 宿泊施設と連携した観光体験と特産品のセット販売を強化し、さらに都市圏拠点での物販・観光体験セット販売を通じて、誘客を促進
- 地域通貨の導入による、地域内消費促進の仕組みづくり
- 地元特産品やオリジナル商品を組み合わせた「地域限定セット」の販売
- 春の花見ツアー、夏のアウトドア体験、冬の温泉パッケージなど季節限定プランの企画・告知

### ② 産業遺産を活用した観光推進

- SL観光鉄道の活用による、地域の産業遺産体験の推進
- 産業遺産に関する情報を盛り込んだガイド付きツアーの企画・提供
- 地元工芸品や特産品を取り入れた産業遺産関連商品の開発・販売

### ④ 観光客誘致と消費をつなげるプロモーション

- SNSを活用した観光地の魅力を発信するキャンペーンの実施
- 観光シーズンごとに特化したプロモーションをによる、観光客の誘致

### ⑤ 観光施設や商業施設との連携強化

- 観光地内の商業施設や地元商店街との連携強化による、観光客の地域内消費の促進
- 観光とビジネスの融合による、交流イベントの推進

## 2. 重点戦略（施策）



### 3. 広域連携とインバウンド戦略

#### ① 広域観光ルート形成

- リニア開業を見据えた将来の広域観光ルート形成に向けた準備

#### ③ インフラ整備

- 観光地内や観光施設での多言語対応の案内提供
- 観光地内や観光施設での無料Wi-Fi環境の整備

#### ② インバウンド向けプロモーション

- 岐阜未来遺産認定等を活かした海外市場に向けた観光プロモーションの強化
- インフルエンサーとの連携によるSNS発信強化
- ターゲット国別プロモーションの実施
- VR体験等のSNSやオンラインの発信による、訪日前に魅力を体験できる仕組みづくり

#### ④ 地域連携とマーケティング強化

- 複数の観光地が連携した広域的な観光プログラムの提供
- 観光客データの収集と分析の強化



## 2. 重点戦略（施策）



### 4. 特化型・テーマ型コンテンツの推進

#### ① ロケツーリズム推進

- 映画やドラマ等の撮影地として観光地を活用する撮影支援
- 映画やドラマ等の「聖地巡礼ツアー」の提供
- 映画やドラマ等の撮影地を巡るロケ地マップの作成

#### ② 文化・歴史観光の推進

- 岐阜未来遺産認定を活かした地域資源の活用と観光発信の強化
- 地域の歴史的資源を活用した歴史ツアーの提供
- 地元文化・伝統芸能の観光資源としての強化

#### ③ 食と農業体験観光の強化

- 農業体験を通じた、自然環境と農業とのつながり体験の提供
- 地元の食材や料理を体験するプログラムの提供

#### ④ インバウンド観光向けの多言語対応プログラム

- 多言語ガイドの育成による、インバウンド観光客対応の強化
- インバウンド観光客向けのモニターツアーの実施



VI

## 重要業績評估指標 (KPI)



## 重要業績評価指標（KPI）の設定



本ビジョンにおける成果指標を以下に掲げ、目標値の達成を目指していきます。

	現状値(R6)	目標値(R11)
観光消費額	1 0 3 億円 (R5)	1 1 0 億円
観光入込客数	3 4 5.9 万人	4 1 0 万人
年間延べ宿泊客数	2 6.0 万人	2 8.8 万人
訪日外国人 年間延べ宿泊者数	1.2 万人	2.7 万人
旅行満足度	9 1.3 %	9 3 %



VII

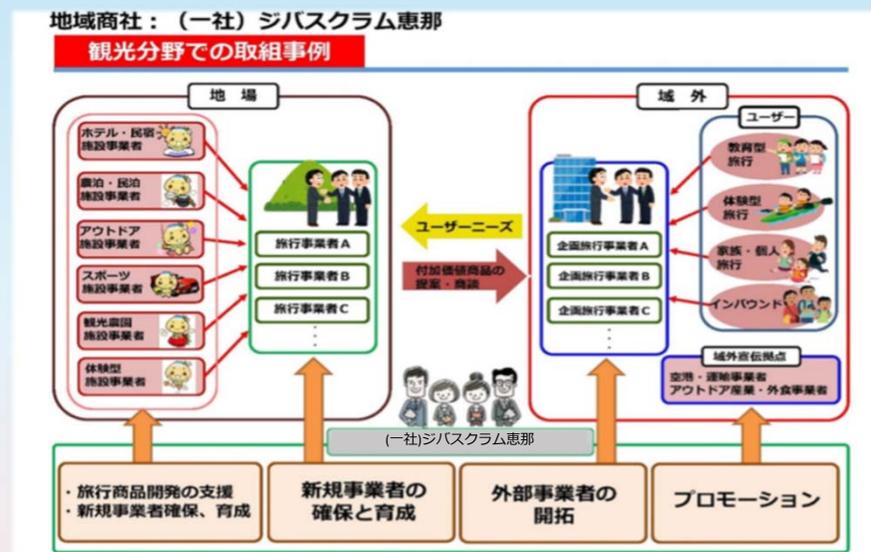
# 实施体制





本ビジョンの推進にあたっては、行政、DMO、観光協会、地域事業者及び住民など、さまざまな主体が役割を分担しながら連携して取り組む体制を整えることが重要である。恵那市では、それぞれの強みを活かしながら、状況に応じて柔軟に協力し合う仕組みを構築する。

行政は全体の方向性や基盤整備を進め、DMOはマーケティングや旅行商品づくり、プロモーションを中心に担う。観光協会は地域の現場での受入や情報発信を行い、地域事業者は宿泊・体験・飲食など、来訪者が直接触れるサービスを提供する。また、住民や団体の協力は、地域の魅力や価値を守りながら、温かいおもてなしを生む大切な要素である。



これらの関係者が、恵那市観光ビジョン推進委員会などの場を通じ、施策の進捗や課題を共有し、必要に応じて改善や調整を行うことで、ビジョンの実現を目指す。固定的な役割にとらわれず、状況に応じて柔軟に協力関係を築くことで、持続的な観光地づくりを進める。

VII

# 評価と見直し





# 1.進捗管理と意見の反映

本ビジョンに基づく施策の推進にあたっては、実施状況を適切に把握し、必要な改善を行うため、定期的な評価及び見直しを実施するものとする。社会情勢や観光動向の変化に対応しながら、計画期間中においても柔軟かつ的確な運用を図ることを基本とする。

## 進捗管理

- ・本ビジョンに掲げる施策について、関係部署及び関係機関からの報告を踏まえ、毎年度、恵那市観光ビジョン推進委員会において進捗状況を確認するものとする。
- ・観光客数、宿泊実績、観光消費額等の指標（KPI）を活用し、目標の達成状況を検証するとともに、課題が認められる場合は、当該要因を整理し、必要な改善策の検討を行う。



## 意見の把握及び反映

- ・地域事業者、住民及び観光客から寄せられる意見、並びに日常的な事業の実施過程において得られる情報を適切に把握し、施策の改善及び計画の見直しに反映するものとする。
- ・アンケート、意見交換等の形式的手法に加え、現場における事実や傾向も考慮し、必要に応じて対応策の検討を行う。





## 各段階で施策・事業の検証を行い、必要に応じて見直しを行う

- 計画期間中においても、進捗管理及び意見の把握に基づき、必要と認められる場合には、施策内容の調整又は改善を行うものとする。
- 特に社会環境の変化や観光需要の動向等、計画の前提条件に影響を及ぼす事項が生じた場合には、迅速に対応し、実効性の確保を図る。

